

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 98
2024.6

TOPICS

1

大学院生の大原瑞萌さんがユネスコ長期インターンシップ 派遣第一期生に選出！ 那須学長らを表敬訪問



大学院社会文化科学研究科博士後期課程の大原瑞萌さんが、文部科学省とユネスコ本部が共同新設したユネスコ長期インターンシップ「ユネスコ研修プログラム」の派遣生に選出されたことを受け、5月30日、那須保友学長らを表敬訪問しました。

本プログラムは、文部科学省が、日本の若者にユネスコ事務局での長期研修の機会を提供することにより、ユネスコ活動に対する理解促進、国際機関職員をはじめとしたグローバルに活躍できる人材の育成、ユネスコ活動を活用した地域活性化等に貢献することを目指しています。

大原さんは、本プログラムの第一期生として2024年7月から1年間、本学のユネスコチェアが取り組んでいる持続可能な開発のための教育(ESD)を担当している、ユネスコ本部教育局(在フランス・パリ)に派遣されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13181.html



TOPICS

2

岡山大学・米務省 「重要言語奨学金(CLS)プログラム」開講式を挙

本学は、米務省により選抜された全米トップクラスの大学生・大学院生が他国の言語と文化を集中的に学ぶ「CLSプログラム」の日本唯一の派遣先として2019年度から採択されています。今年は、6月14日～8月8日までの約8週間、全米から選抜された25人の大学生・大学院生を受け入れます。

6月14日の開講式では、那須保友学長が「岡山でのさまざまな経験を楽しみながら、将来に役立ててほしい」と式辞。CLS学生を代表して、Lyla Maya Normandさんが「CLS学生はそれぞれ異なるバックグラウンドを持っていますが、これから皆が同じ環境で、日本語の上達を共通の目標としてチャレンジします」とあいさつしました。

本プログラムでは、日本語の授業のほか、本学学生がCLS学生のランゲージパートナーとして交流します。また、課外活動を通して、持続可能な社会について考え、発表を行います。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id729.html



Pick up!

令和6年度岡山大学教育学部附属学園の運動会を挙



6月6日、令和6年度岡山大学教育学部附属学園の運動会を岡山県総合グランド体育館(ジップアリーナ岡山)で開催しました。

運動会は、幼稚園・小学校・中学校合同で実施し、児童・生徒1,255人や保護者らが参加。開会式には那須保友学長が駆け付け、児童・生徒に対し「皆で今日1日一緒に楽しい時間を過ごし、思い出に残る素敵な運動会にしましょう！」とあいさつ。また、保護者と教職員の開催への協力に対し謝辞を述べました。

全児童・生徒が参加するのびのび体操に始まり、大玉送りや仲良し玉入れなど、附属学園ならではの合同プログラムが盛り込まれ、児童・生徒は、懸命に競技に取り組んだり、大きな歓声をあげて仲間を応援したりしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13167.html



TOPICS

3

「岡山大学TCカレッジ医工系コース」2024年度カリキュラムを始動 ～技術職員の知識・技術力の向上を目指し「高度専門人材養成」を強化促進～

本学技術統括監理本部を構成する組織のひとつである総合技術部は、2022年度より東京工業大学が事務局を行っている高度技術職員養成の取り組みの一つであるTCカレッジに、そのサテライト校として参画しています。本学では、大学における技術職員の高度人材養成などを他大学と協働で推進しており、「岡山大学TCカレッジ医工系コース」は、昨年度の学内開講の試行期間を経て、本格開講となりました。5月29日に第1回目となる「上級カリキュラム医工講究」を鹿田キャンパスにおいてオンライン併用のハイブリッド形式で開講し、総合技術部の榎崎正博技術専門職員、塚野萌美技術主任ら関係する教職員が受講しました。

榎崎技術専門職員は、「走査型電子顕微鏡 (SEM) 血管鑄型樹脂の改良について」と題し、生物系における各電子顕微鏡の見え方の違いや、血管鑄型樹脂の最適条件の検討などについて紹介。参加者から多くの質問が寄せられたほか、活発な意見交換が行われ、有意義な医工講究となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13171.html



TOPICS

4

産学官連携によるデジタル技術を活用したイノベーションの創出に向け 「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム」(OI-start)を設立



本学と岡山県は5月31日、県内企業、大学等の研究者及び学生が組織・分野の枠を超えて連携し、先端デジタル技術を活用したイノベーションの創出に取り組む「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム」(OI-Start)の発足を津島キャンパスで開催しました。

発足会には会員企業・大学・自治体などから、約200人が来場。三村聡地域共創・ベンチャー担当副理事があいさつの後、野上保之学術研究院環境生命自然科学学域教授がOI-Startのビジョンと活動内容について紹介しました。

経済産業省中国経済産業局によるキックオフトーク、参画大学等の研究者によるシーズ発表に続き、那須保友学長が登壇。「事務局として、岡山の発展に全力を尽くしたい」と話し、OI-Startのロゴマーク案を披露しました。

第二部では、ポスターセッションと情報交換会を実施し、来場者は出展者と熱のこもった議論を交わしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13145.html

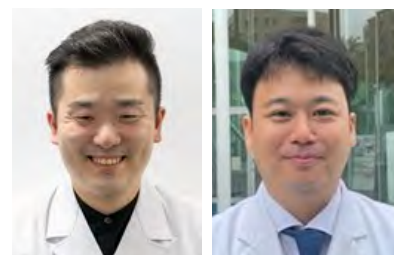
PRESS
RELEASE

OTバルーンカテーテル®の目詰まり特性評価 ～行動制限の少ない排尿管理の実現を目指して～

岡山大学病院泌尿器科の渡部智文医員、定平卓也助教、学術研究院医歯薬学域(医)の荒木元朗教授らの研究グループは、大塚テクノ株式会社(徳島県)との共同研究において、OTバルーンカテーテル®(製造販売元:大塚テクノ株式会社)に備わった疎水性フィルターの目詰まり特性を、清潔間欠導尿を実施中の患者から採取した尿を用いて実施しました。その結果、疎水性フィルターは尿曝露後、流水で洗浄した場合はすべてのサンプルで、また、全く洗浄を行わなかったとしても半分以上のサンプルで通気性を維持していることがわかりました。これらの研究成果は5月4日、国際禁制学会(International Continence Society)の学術雑誌「*Continence Reports*」のResearch articleとして掲載されました。

本研究結果によって、OTバルーンカテーテル®の特長である、尿流出の要らないカテーテル留置が、推奨使用期間の間安全に実施できることが示唆されました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1238.html



渡部医員

定平助教

